

## 平成26年4月19日（土）の「仏教女性の集い」

法然上人の年忌である御忌<sup>ぎよきだいえ</sup>大会が行われており、法要が営まれている知恩院周辺はいつもに増して参拝者や観光客でにぎわっていました。



近藤先生のお話もご法話に入られる前に今開催されている法然上人の忌日法要（御忌）のお話がありました。今朝の朝日新聞に《ミッドナイト念仏》と称して三門の二階内部で夜通し念仏されており、その内容が写真入りで報道されていた。と、話されて今日より一週間知恩院において一日朝・昼・夕と三回の法要が行われると説明をされて本題へと進められました。

御法話は、法然上人御法語後篇 第31「還来度生」<sup>げんらいどしょう</sup> 勅伝第28巻 法然上人の御法語最終の第31となりました。一か月一回、一年十回としても三年、前後編があって六年。何度か繰り返した事を加えると20年近くの長きに渡っての最終となりました。

今回の御法語は、津戸三郎為守と言う、法然上人を慕っていた鎌倉武士からの手紙に対しての返答の文章です。前回の「廻向」と引き続いた内容です。『仏教を余り知らない人が念仏だけをしていて良いのでしょうか？もっと他の修業をする方が良いのではないのでしょうか？』と言う問いに『心のない人が言う言葉に惑わされるのではなく、憐れみなさい。それより念仏に疑いを持たぬ事です。お念仏は簡単に誰にでもできる事に悪評が横行したのであって、阿弥陀様に縁がある人は、気にせずによろしい』

このような「仏教女性の集い」にめぐり会われるのも縁があるからこそです。縁の無き人はどのような機会があっても巡り合うことが出来ないし、関心を持たれないものです。縁があると言うことは、このような話を聞くだけでも行ってみようかと思えるものです。阿弥陀様に縁の薄い人は、悟りを開く時期にまだ来ていないので妨げようとし、縁があればそのような事は致しません。そのような事に心を動かされてはいけません。

前回のお話の中にもあった「廻向」<sup>まわしめくらす</sup>は廻し廻らせる。自分自身も念仏を申すことで廻らされるが、先祖や亡き人の為に念仏を差し向ける事で極楽の世界に行くことができます。本願の念仏によってあちらの岸（彼岸）に渡る事が出来るのです。一声の念仏は波動によって宇宙へと広がっていくのです。と念仏の力には間違いはないと強くお教えを導いて頂きました。

近藤先生が「法然上人の御忌法要の時期にあたり、法然上人が説いて下さった念仏の教えがあればとそ心安らかに暮らして行ける。念仏の尊さ・お徳の大きさにどのようにしてお返して行けば良いか、本当に心より感謝する次第です」と話されるお姿に頭が下がるばかりでした。  
(参加者感想 K.O)

大学生の若い方の参加がありました。偶然だったのでしょうが、この日、知恩院近くを散歩されている時にこの「仏教女性の集い」のポスターを目にされたようでした。「ちょっと緊張しましたが・・・」と言って参加されました。座談会の席では現在、仏教大学で日本仏教を勉強されていると話されており、「今日のお話は難しかったですが、勉強になりました」と、笑顔で話されると、近藤先生は仏教学の話も加えて今後、学ぶべき指針のレクチャーをされて学生さんにとっては良い経験をして頂いたのでは、と感じる事が出来た一日でした。



お茶菓子は「春の川」

次回の「仏教女性の集い」は平成 26 年 5 月 17 日です。

「仏教女性の集い」は毎月第 3 土曜日、1 時～4 時

参加費 1,000 円 宗教・宗派は問いません。

条件は女性であることだけです。

多数のご参加お待ちしております。

市バス [知恩院前] 下車、東へ徒歩 150m

『吉水尼僧庵』（旧尼僧道場跡）で開催致しております。

問い合わせは 隆彦院 075-561-7581 まで

「仏教女性の集い」の様子は浄土宗吉水会のホームページに掲載しております。

<お知らせ>

近藤先生がご法話下さいました法然上人御法語「前編」が今年出版されます。